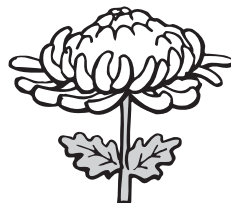


# 農業



平成23年11月号

会誌 No. 1552

## 目次

総裁殿下のお言葉……………桂宮宜仁親王殿下 3

### 挨拶

創立130年を迎えて……………武政 邦夫 4

### 祝辞

大日本農会創立130年に寄せて……………鹿野 道彦 5

現代に生きる大日本農会に期待

－祝辞に変えて……………三輪睿太郎 6

### 130年を迎えて

130年を迎えた大日本農会

大日本農会の果たした役割を中心に……………山極 榮司 7

大日本農会と東京農業大学の関わり……………松田藤四郎 13

農事功績者表彰事業の歩み……………熊澤喜久雄 15

農芸委員活動から農芸委員‘会’活動へ……………西尾 敏彦 20

### 大日本農会創立130年記念中央農事講演会

大震災後の日本経済をどう見るか……………林 健二郎 26

東日本大震災と日本経済

国際金融危機第2幕

2012年の世界経済 日本復活のチャンス

質疑応答…………… 41

**農芸委員会**

放射性物質の農地・農産物への影響…………… 43  
環境に放出された放射性物質の測定と農作物への影響……………村松 康行 44  
農業環境における放射性物質の長期モニタリング……………木方 展治 53  
意見交換…………… 55  
平成23年度（第50回）農林水産祭天皇杯等受賞者…………… 59  
平成23年度（第67回）農業技術功労者表彰受賞者…………… 60

**農政情報**

大日本農会創立130年記念、本会誌電子化事業…………… 81  
大日本農会だより…………… 62  
編集部から…………… 62

**資料**

公益社団法人 大日本農会定款…………… 63  
公益社団法人 大日本農会農事功績表彰規程(抜萃)および  
規程の運用について…………… 68  
大日本農会この10年の事蹟…………… 71  
公益社団法人 大日本農会役職員…………… 79

**表紙写真説明**

**佐賀平野（佐賀県佐賀市）**

佐賀平野は、佐賀県佐賀市を中心として、佐賀県南部から佐賀県東部に広がる平野である。水田が中心で、米の生産が盛んである。これらの水田に灌漑用水を導くため、クリークと呼ばれる水路が各地に展開し、佐賀平野最大の特徴となっている。クリークというのは、水田よりも深く掘られた水路から揚水をして灌漑をするシステムで、「<sup>ほり</sup>いわゆる低平地水田地帯に綱の目のように掘られた溝渠のことである。地元では一般に堀と呼んでいる。クリークは地域ごとに完結して配置されているわけではなく井樋などを通じて上流地域から下流地域まで縦横につらなつた構造となっている。しかも、クリークの水利は、常に用水と排水とが一体不可分なものとして密接な関連を有している。下流地区の用水は上流地区の排水に依存し、上流地区の排水は下流地区の用水となることを前提として考えられている。クリークの水は、上流から下流へと平野を徐々に流下しながら何回となく反復利用され、ついには有明海に注ぐのである」（八木）。クリーク農業は、小規模農家の共同作業で維持され、それが機械化等の大規模経営への展開の阻害要因となっていたが、基盤整備事業でこれが克服され、水稻・麦の二毛作地帯となっている。稲の刈入れと麦の播種の間、佐賀インターナショナルバルーンフェスタが開催される。

参考：八木宏典（本会理事、農芸委員）、1982、「クリーク農業の展開過程」

（写真提供：（社）地域環境資源センター）